

ひらやま その三

※ 文集冊子「ひらやま」の継続版として随時、児童の作品を掲載します。特に四月以降に学校で書いた作文や詩などで、表彰された作品や新聞等に掲載された作品などを紹介します。今回は、「宮崎日日新聞」に掲載された作品です。

「長所を知ること」

六年 渋谷 咲綾

道徳の時間に、自分の長所について考えました。みなさんは、いくつ挙げられますか。その時間、私は一つしか挙げられませんでした。

先生が、「となりの人のいいところを伝えましょう」と言ったので、となりの人から、長所を言ってもらいました。すると、「1年生のせわを、責任をもってしている」や「練習をして二重とびができるようになった」「やるべきことを、きちんとしている」など、たくさん自分の長所を言ってくれてとてもうれしかったです。

そして、今までできていたことは、むだじゃなかった、見ていてくれたんだなと思いました。

また、となりのせきの人の長所を言うと、えがおになって、私もいつのまにかえがおになっていて、まわりを見てみるとみんなえがおになっていました。

長所を知することは、「みんなをえがおにするんだな」と思いました。



「父母の店手伝う」

六年 佐藤 優衣

私のお母さんとお父さんは2人で居酒屋を開いていて、土曜日だけ私もお手伝いをします。お手伝いをして二つの良いことがあります。

一つ目は、お店の開店の準備で客席をきれいにするのがどれだけ大変かです。お店では、お客様が気楽にすごせるよう、部屋をとてきれいにするのがとても大変です。でも、やりがいがあります。

二つ目は、開店準備が終わったあとに達成感があり、うれしい気持ちになることです。この達成感があると、また開店準備を一しように命やってきれいになりたいという気持ちになります。

お店の開店準備は、すごく大変だけどお客様のことを一番に考えてがんばると、とてもきれいになり、二つ目のように達成感があり、またやりたいと思います。また、お母さんとお父さんを少しでも楽にして、「ありがとう」と言われることも私はとてもうれしくなります。だから、次はもっときれいにしたいという気持ちになります。



かきごおり赤青黄色雪景色

六年 黒木 梨音

海の中かがやく白い日の光

五年 治田 凌佑

初夏になり木々や花々咲き乱れ春さようなら夏こんにちは

六年 山田 幸奈